おぼしておはします方に參り給へれば、さならんと御心えさせ給て、すみの間に出させ給て、東宮に參りたりつるかと問はせ給へば、よべの御せうそく委しく申させ給に、さうなりや、おろかにおぼしめさんやはおしておろし奉らん事は憚りおぼしめしつるに、かゝる事のいできぬる御よろこび猶つきせず、まづいみじかりける大宮の御すくせかなとおぼしめす、民部卿殿に申あはせ給へは、たゞとく〳〵せさせ給べきなり、何かよき日もとらせ給、すこしものびばおぼし返して、さらでありなんとあらんをば、いかゞはせさせ給はんと申させ給へば、さる事とおぼして御覽ずるに、けふもあしき日にもあらざりけり、やがて關白殿○此時關白ナシ、攝政藤原頼通ヲ云フナラン、も參らせ給へるほどに、とく〳〵とそゝのかし申させ給、まづいかにも大宮に申てこそはとて、うちにおはしますほどなれば參らせ給て、かくなんときかせ奉らせ給へば、まして女の御心はいかゞはおぼしめさん、それよりぞ春宮に參らせ給、かう申事は寛仁元年八月六日の事也、又例も御ともに參り給御こどもの殿ばら、また例も御ともに參り給上達部殿上人、ひきぐせさせ給へれば、いとこちたくひゞきことにておはしますを、待つけさせ給へる宮の御心ちは、さりともすこしすゞろはしうおぼしめされけんかし、○中略殿にはとしごろおぼしめしつる事など、こまかに聞えんと心づよくおぼしめしつれど、まことになりぬるをりはいかになりぬる事ぞと、さすがに御心さわがせ給ぬ、むかひきこえさせ給ては、方々におくせられ給にけりとや、たゞ昨日の同じさまに中々事ずくなにおほせらるゝ、御かへりは、さりともいかにかくはおぼしめしよりぬるぞなどやうに申させ給けむかしな、御けしきの心ぐるしさをかつは見奉らせ給て、すこしおしのごはせ給て、さらば今日よき日なりとて、院になし奉らせ給て、やがて事ども始めさせ給て、よろづの事さだめ行はせ給、判官代には、宮づかさども藏人などかはるべきにあらず、別當には中宮の權大夫をなし奉り給へれば、おりて拜し申させ給、事ども定まりはてぬれば出させ給ぬ、○原